

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	インターフェース I	
科目基礎情報							
科目番号	0116			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気情報工学科			対象学年	3		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	なし/適宜プリント配布,横山編「C言語による制作と制御実習入門」(シータスク)						
担当教員	中川 重康,丹下 裕						
到達目標							
1 コンピュータの仕組みが分かる。 2 分圧の計算ができる。 3 電力・電力量の計算ができる。 4 簡単な論理回路を理解できる。 5 パーソナルコンピュータのバスを理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	コンピュータの仕組みが十分に分かる。		コンピュータの仕組みが分かる。		コンピュータの仕組みが分からない。		
評価項目2	分圧の計算が応用できる。		分圧の計算ができる。		分圧の計算ができない。		
評価項目3	電力・電力量の計算が応用できる。		電力・電力量の計算ができる。		電力・電力量の計算ができない。		
評価項目4	簡単な論理回路を十分理解できる。		簡単な論理回路を理解できる。		簡単な論理回路を理解できない。		
評価項目5	パーソナルコンピュータのバスを十分理解できる。		パーソナルコンピュータのバスを理解できる。		パーソナルコンピュータのバスを理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (E)							
教育方法等							
概要	コンピュータと周辺機器との接続、制御方法などを理解し、その基礎技術を修得する。基礎的な知識・技術を聴講した後、これらを組み合わせた回路を報告書にまとめる。						
授業の進め方・方法	【授業方法】 授業は講義と演習形式で行う。講義中はノートをとり集中して聴講し、演習中は周囲の学生と積極的に議論すること。必要に応じてレポート課題を課すので期限内に遅れずに提出すること。 【学習方法】 黒板の内容は必ずノートに取ること。						
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 中間・期末の2回の定期試験を行う。試験の平均点(70%)、課題の提出状況および内容評価(30%)で総合成績を評価する。 【備考】 M o o d l e、電子メールを用いて資料提供、連絡を行うので、パソコンおよびスマホの操作に慣れること。 【教員の連絡先】 研究室 A棟1階(A-105) 内線電話 8967 e-mail: nakagawaアットマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	シラバスの説明、コンピュータ制御の仕組み		1		
		2週	コンピュータのハードウェアとソフトウェア		1		
		3週	ダイオード、トランジスタ		2, 3		
		4週	LED駆動回路、様々なLED駆動回路		4		
		5週	スイッチング回路		4		
		6週	TTLレベル、論理回路		4		
		7週	演習		5		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	パソコン制御に必要なハードウェア		5		
		10週	デコーダ回路		5		
		11週	PPI(インターフェース用IC)の概要		5		
		12週	I/Oボード回路の概要		5		
		13週	レポート作成		5		
		14週	PPIの使い方について、レポート作成		5		
		15週	演習・レポート作成		5		
		16週	(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報リテラシー	論理演算と進数変換の仕組みを用いて基本的な演算ができる。	3		
				コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を活用できる。	3		
専門的能力	分野別の専門工学	電気・電子系分野	電気回路	電荷と電流、電圧を説明できる。	1		
				オームの法則を説明し、電流・電圧・抵抗の計算ができる。	3	前1	
				キルヒホッフの法則を用いて、直流回路の計算ができる。	3	前1	
				合成抵抗や分圧・分流の考え方を用いて、直流回路の計算ができる。	3	前1	
				電力量と電力を説明し、これらを計算できる。	3	前1	
			電子回路	ダイオードの特徴を説明できる。	3	前3	
				演算増幅器の特性を説明できる。	3	前6	
				電力	直流機の原理と構造を説明できる。	1	
			計測	A/D変換を用いたデジタル計器の原理について説明できる。	3		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0